The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	機関リポジトリ担当者の人材育成
Author(s)	大阪大学附属図書館; 千葉大学附属図書館; 広島大学図書館 他
Citation	
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/14188
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

学術機関リポジトリ構築連携支援事業

平成22年度委託事業報告

機関リポジトリ担当者の人材育成

代表機関:大阪大学　分担機関:千葉大学

連携機関:広島大学　島根大学　浜松医科大学　奈良大学

大阪大学附属図書館学術情報整備室　前田信治

学術機関リポジトリ構築連携支援事業

平成22年度委託事業報告

平成22年9月15-18日	DRF技術ワークショップ DRFtech-Karuizawa	参加者8名 （招待制）
平成22年9月21-22日	DRF技術ワークショップ DRFtech-Kagawa	参加者32名
平成22年10月29日	DRF技術ワークショップ DRFtech-Hamamatsu	参加者40名
平成22年11月4日	DRF主題ワークショップ （医学・看護学） DRFmed-Nara	参加者36名
平成22年11月25日	第7回DRF全国ワークショップ DRF7	参加者207名
平成22年12月22日	DRF主題ワークショップ (芸術・音楽・体育) DRF-ARt+Music+Sports	参加者45名
平成23年2月4日	DRF技術ワークショップ DRFtech-Asahikawa	参加者49名
平成23年2月18日	DRF技術ワークショップ DRFtech-Kumamoto	参加者50名

学術機関リポジトリ構築連携支援事業

平成22年度委託事業報告

DRFtech-Karuizawa

成果はDRF-Wiki に掲載

http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?DRFtech-Karuizawa2010

学術機関リポジトリ構築連携支援事業

平成22年度委託事業報告

DRFtech-Kagawa

「1年に1回は研修会を開いていただけたら心強いです」

「今回の様な基礎について学びたいです」

「・・・・・分からないながらも、ついていけないながらも、ここに来させていただけてすごく良かったです」

学術機関リポジトリ構築連携支援事業 DRFtech-Hamamatsu

平成22年度委託事業報告

「リポジトリの担当者ではないので、概念としては分かったつもりだったが、実際に手を動かしてみて流れがよくわかった。」

「同じ公立大の報告ということでサーバにかける予算、職員の動員というような点が参考になりそうとだと思った」

「オープンアクセス運動から始まった機関リポジトリについて、概要、要点がわかりやすくまとめられていて良かった」

学術機関リポジトリ構築連携支援事業

平成22年度委託事業報告

DRFmed-Nara

「医学分野に特化したリポジトリのワークショップで非常に参考になりました」

「こういう話を聞くのはほとんど初めてなので良かった」

「先日リポジトリを説明する機会があったが、先にこの講演を聴いていればよりわかりやすい説明ができたかと思う内容であった」

学術機関リポジトリ構築連携支援事業

平成22年度委託事業報告

DRF　7

「義務化して20～30%とはおどろきました。文化の違いもあるかもしれませんが、評価とのリンクは日本では最も火種な箇所な気がします」

質問（1/3）

- レディング大学では**ペナルティ**はあるのか。あるいは**報償**はあるのか。
- 反対する教員はいないのか。**義務感、上から感、押しつけ感**が、逆にOAへの意欲を減退させることはないのか。

「既存のものを壊すのではなく、既存のものに新たなものを加えていく、という話が印象的でした」

「私大の事例もきいてみたい」

「やっぱり教員にアピールしなっきゃ！！」

「リポジトリ登録の制度化についてはもう少し具体的な事例を聞ければよかった」

学術機関リポジトリ構築連携支援事業
平成22年度委託事業報告

DRF-
ARt+Music+Sports

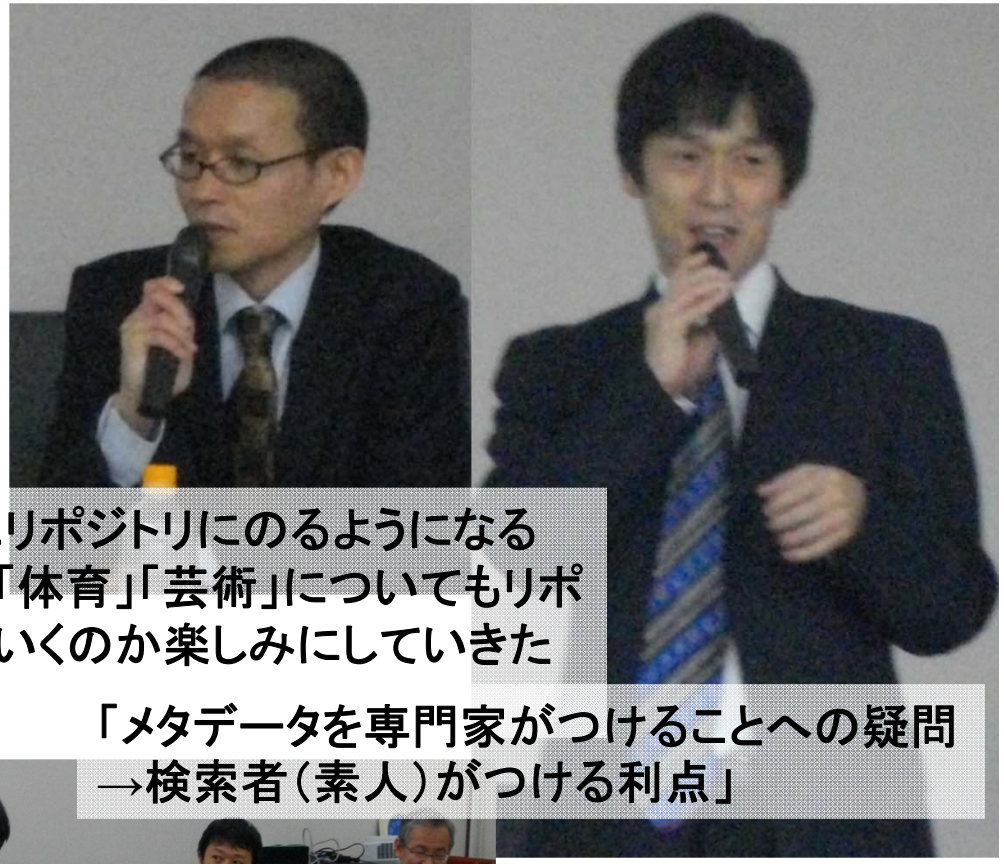
DRF Digital Repository Federation

画像データ利用促進のための実験

- 大学内に少なからず存在する非言語のデータはより有効に利用されるべき
- (いろいろな検索技術が開発されてはいるものの現状では)非言語のデータを検索する場合でも「言語」によるのが現実的

写真を音訳する際の注意点※

1. 主観的な表現は避け，客観的な説明につとめる。
2. 説明の順序として，まず場所や概略などの説明をし，次にテーマ，ポイントとなるところ，ポイントの部分は詳しく説明し，周辺に属する[illegible]
3. 写真のテーマとなるところ，ポイントの部分は詳しく説明し，周辺に属する[illegible]
4. 写真の説明文の本文中に書かれてある表現は，説明では適宜省くなど，[illegible]ようにする。
5. 写真中，確定的でないものには断定的な表現は避け，「～のような」「～らしい」などの表現を工夫する。



「「音楽」がこれからどのようにリポジトリにのるようになるのかちょっと楽しみです。また「体育」「芸術」についてもリポジトリでどのように公開されていくのか楽しみにしていきたいと思います」

「メタデータを専門家がつけることへの疑問
→検索者(素人)がつける利点」

学術機関リポジトリ構築連携支援事業 DRFtech-Asahikawa

平成22年度委託事業報告

「迷いながら進めている様子が伝わり同感できた」

（アタック数……75人）

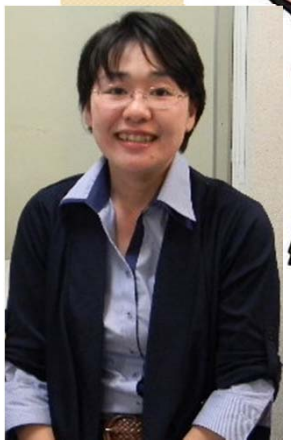
●Barrel論文提供数……73件

●Barrel登録件数……31件

やってよかった、そしてこれからも続けます

これであなたも担当者♪

（コンテンツ探しの苦労へと続く・・・）



「UsrCom は初めてログインした。Dspace 以外にもいろいろ試せることを知らなかった。今後使いたい」

学術機関リポジトリ構築連携支援事業

平成22年度委託事業報告

DRF Digital Repository Federation

DRFtech-Kumamoto

「すごくわかりやすくて勉強になりました」

「カフェ活動はとても魅力的に感じました。情報・論文・資料のオープンの前に、「人」と「人」とがオープンになること、その大切さを改めて感じました」

事例報告「熊本大学学術リポジトリとの関わりについて」

Kumamoto University

② 学術リポジトリ拡充計画の策定（ILL複写受付）

熊本大学紀要で熊大に所属している先生のデータ（1月~12月）

→ 98件

リポジトリに登録されたデータ数（2月１日時点）

→ 49件

49/98

「具体的な数値を出していたのがよかったと思います」

約半数がリポジトリに登録された！

学術機関リポジトリ構築連携支援事業

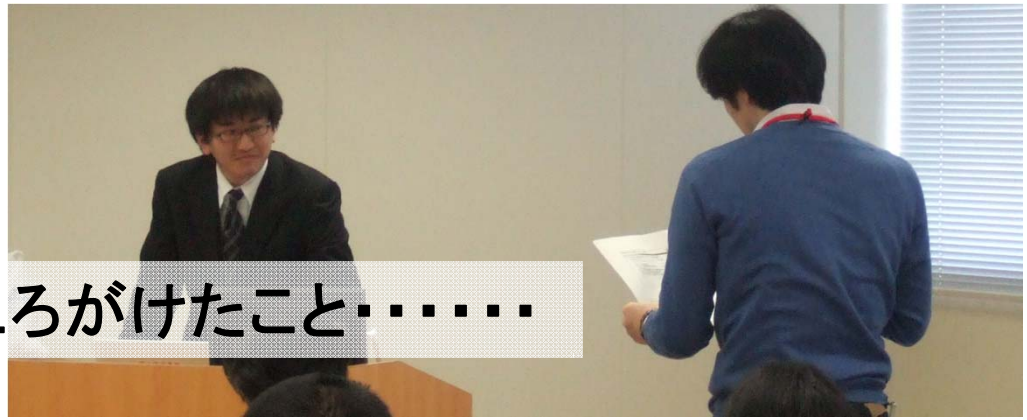
平成22年度委託事業報告

「機関リポジトリ運営に関する情報共有、研鑽のためのさまざまな機会の提供」

～デジタルリポジトリ連合（DRF）要項第2章目的及び活動第4条（活動）第1項

学術機関リポジトリ構築連携支援事業

平成22年度委託事業報告



こころがけたこと・・・・・・

先行機関も未構築機関も、大規模機関も中小規模機関も一緒に
教員（の立場から）の話と何でも質問会をプログラムに入れよう
今までDRFでイベントを開催したことのない場所で開催しよう
必ず楽しくやろう、まずIRの楽しさを伝えよう（まず”土”を作ろう）

学術機関リポジトリ構築連携支援事業

平成22年度委託事業報告

今年度、更にその先・・・・・・

初級研修、中級研修、講師派遣など各種のイベント支援 （研修事業の整理・体系化）
一定レベルのシステムのスキルを身につけた担い手の次のステップ （問題の解決にはシステムのスキルが必須）
機関リポジトリの効果的な運営方法とその位置付け・目的を再確認 （How → What for → How → What for ・・・・・・）
学術情報の流通全体の中での機関リポジトリ活動を理解する （学術出版、研究者DB（名寄せ）、EJ、Big Deal・・・・・）

学術機関リポジトリ構築連携支援事業

平成23年度委託事業

今年度もやりますです

DRF Digital Repository Federation

みなさんもいっしょに！